

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成26年10月30日(2014.10.30)

【公表番号】特表2013-500755(P2013-500755A)

【公表日】平成25年1月10日(2013.1.10)

【年通号数】公開・登録公報2013-002

【出願番号】特願2012-522253(P2012-522253)

【国際特許分類】

A 6 1 B 19/00 (2006.01)

A 6 1 M 29/00 (2006.01)

A 6 1 B 17/00 (2006.01)

A 6 1 L 27/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 19/00 5 0 2

A 6 1 M 29/00

A 6 1 B 17/00 3 2 0

A 6 1 L 27/00 P

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年9月9日(2014.9.9)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

血管の外部配置に適するサポートであって、当該サポートは、前記血管の周りに配置可能で、前記血管と形態学的関係にあるように成形され、前記サポートは、チューブ内に形成可能な單一片の高密度のメッシュであり、且つ、より支持の度合いが大きい一つ以上の領域を有することを特徴とするサポート。

【請求項2】

硬化性材料から形成される請求項1に記載のサポート。

【請求項3】

血管の外部配置に適するサポートであって、当該サポートは、前記血管の周りに配置可能で、前記血管と形態的関係にあるように成形され、前記サポートは、硬化性材料から形成されると共に、チューブ内に形成可能であり、且つ、より支持の度合いが大きい一つ以上の領域を有することを特徴とするサポート。

【請求項4】

前記サポートは、フープ強度が増加された第1のより支持の度合いが大きい領域を有する請求項1～3のいずれか1項に記載のサポート。

【請求項5】

前記サポートは、前記サポートの厚みがより大きい第2のより支持の度合いが大きい領域を有する請求項1～4のいずれか1項に記載のサポート。

【請求項6】

前記サポートは、より支持の度合いが小さい領域を有する請求項1～5のいずれか1項に記載のサポート。

【請求項7】

前記血管は大血管である請求項1～6のいずれか1項に記載のサポート。

**【請求項 8】**

前記硬化性材料が、複数の孔を有するメッシュの形態である請求項3又は請求項3に從属する請求項4～7のいずれか1項に記載のサポート。

**【請求項 9】**

前記サポートは、形成具に設けられる請求項1～8のいずれか1項に記載のサポート。

**【請求項 10】**

前記第2のより支持の度合いが大きい領域は、サポートの少なくとも二倍の厚みを有する請求項5に記載のサポート。

**【請求項 11】**

前記第2のより支持の度合いが大きい領域は、サポートの一領域であって一端が折り返される裾部のヘムである請求項5又は請求項10に記載のサポート。

**【請求項 12】**

前記第2のより支持の度合いが大きい領域は、増加されたフープ強度を有する請求項6、請求項10又は請求項11に記載のサポート。

**【請求項 13】**

前記サポートは、フープ強度が減少されたより支持の度合いが小さい領域を有する請求項6に記載のサポート。

**【請求項 14】**

前記血管は、上行大動脈である請求項7に記載のサポート。

**【請求項 15】**

前記血管は上行大動脈であり、且つ前記サポートが

大動脈の三尖弁部分を支持するのに使用される第1のより支持の度合いが大きな領域；

大動脈弁輪を支持するのに使用される第2のより支持の度合いが大きな領域；及び／又は

大動脈弁輪から遠くのサポートの端にあるより支持の度合いが小さい領域、の特徴の一つ以上を有する請求項7又は14に記載のサポート。

**【請求項 16】**

前記硬化性材料は複数の孔を有するメッシュの形態であり、メッシュ孔はダイヤモンドの形態である請求項8に記載のサポート。

**【請求項 17】**

前記サポートは形成具上に設けられ、前記サポートは前記形成具上に解放可能に取り付けられる請求項9に記載のサポート。

**【誤訳訂正2】**

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

本発明によると、血管の外部配置に適する第1のサポートが提供され、このサポートは、血管の周りに配置可能でその血管と形態学的関係にあるように成形されており、且つ該サポートは、チューブ内に形成可能な單一片の高密度メッシュである。この結果、従来技術のサポートよりも製造が容易でインプラントが容易なサポートが得られる。

**【誤訳訂正3】**

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

ある実施の形態では、硬化性材料は、メッシュ、特に、高密度のメッシュの形態が可能

である。ある実施の形態では、硬化性材料は、メッシュを形成するために使用される糸が細い糸であるか、或いはメッシュが小さな孔サイズを有する、高密度メッシュの形状が可能である。任意ではあるが、そのサポートは、編物又は織物材料から形成可能であり、任意ではあるが、そのサポートは、編メッシュから形成される。ある実施の形態では、そのサポートは、生理学的に許容される材料（例えば、縫合糸として使用されるのに適する材料）、例えば、天然纖維（例えば、絹）及び／又は化学纖維（医療グレードポリマー、例えば、ナイロン、ポリプロピレン、ポリエステル、ポリテトラフルオロエチレン（P T F E）又はポリエチレンテレフタレートなど）から形成可能である。このサポートは、生理学的に吸収性の材料から形成可能である。任意ではあるが、サポートを、滅菌することができる。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 8】

サポート200は、サポート200が、閉細胞の形状であり、高密度のメッシュ材料が実質的に均一な厚みを有するように、ダイヤモンド形のメッシュ孔204を形成する、編まれた細い糸202から形成されることが図3に示されている。サポート200は、サポート200がチューブの形状であるように継ぎ目糸236によって長手継ぎ目230で接合される長手両縁232と234を有する。